

教育改革支援本部 自己点検・評価報告書

1-1 理念・目的

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(理念・目的等) ○ センター等の理念・目的・教育目標とその適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 明治大学は、大学の教育理念に基づく教育の質的向上を図るとともに、社会に有用な人材を育成するための優れた教育改革への取組みに対する支援・推進を目的として、学長の下に明治大学教育改革支援本部（以下「本部」という。）を設置する。 ・長所 ・問題点 	
○ センター等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
(理念・目的等の検証) ・ センター等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	

2 教育研究組織

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ センターなどの組織構成と理念・目的等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 本部は、次に掲げる者をもって組織する。 (1) 本部長 1名 (2) 副本部長 1名 (3) 本部員 10名程度 ・長所 ・問題点 	
・ センター等の組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	

3 教育内容・方法等

①教育課程等

目的																														
<p>文部科学省が行う大学の教育改革への支援事業－GP（Good Practice）－を推進し、本学における教育を特色あるものとし、学生の満足度を高める。</p>																														
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策																												
<p>○ 教育目標を実現するための教育課程の体系性</p>	<p>・現状</p> <p>(1) GPへの申請活動 2008年度は、「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」「大学教育の国際化推進プログラム(国際GP)」「大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)」「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム(学び直しGP)」「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」へ申請を行った。</p> <p>(2) 教育改革事業への支援 GPへの申請取組を決定する教育改革支援本部において、各プログラムに対応する取組に対して、重点的に財政支援を行っている。その支援対象は、</p> <p>① 教育改革支援本部においてGPへ申請可能と判断した取組</p> <p>② 採択だったものの再申請をめざしている取組</p> <p>③ 採択された取組の初年度において、補完または広報をするための支援</p> <p>④ その他学長が必要と認めた取組</p> <p>であり、本部長（もしくは幹事会）が提案し、学長の了承を得て決定する。</p> <p>・長所</p> <p>(1) GPへの申請活動 2008年度は、教育GP・大学院GP・国際GPに3件が採択された。</p> <p>(2) 教育改革事業への支援 文部科学省の動向に注意を払い、教育改革支援本部が中心となり積極的に取組の発掘を行ない、以下のとおり財政支援を行なっている。</p>	<p>(1) GPへの申請活動 啓蒙活動のため、2008年度までに採択された各取組を集め「採択事例報告会」を行なった。</p>																												
<p>2008年度 教育改革支援・推進経費について(予算執行額)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>執行額</th> <th>内容</th> <th>移管先</th> <th>目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,000,000</td> <td>2007年度採択大学院GP</td> <td>大学院G</td> <td>補完</td> </tr> <tr> <td>3,000,000</td> <td>2007年度採択社会人学び直しGP</td> <td>エクステンションG</td> <td>補完</td> </tr> <tr> <td>1,800,000</td> <td>戦略的大学間連携</td> <td>教学企画G</td> <td>育成</td> </tr> <tr> <td>3,000,000</td> <td>2007年度採択社会人学び直しGP</td> <td>エクステンションG</td> <td>補完</td> </tr> <tr> <td>2,000,000</td> <td>2005年度採択現代GP</td> <td>商学部G</td> <td>補完</td> </tr> <tr> <td>500,000</td> <td>2008年度採択国際GP</td> <td>国際交流G</td> <td>補完</td> </tr> </tbody> </table>			執行額	内容	移管先	目的	5,000,000	2007年度採択大学院GP	大学院G	補完	3,000,000	2007年度採択社会人学び直しGP	エクステンションG	補完	1,800,000	戦略的大学間連携	教学企画G	育成	3,000,000	2007年度採択社会人学び直しGP	エクステンションG	補完	2,000,000	2005年度採択現代GP	商学部G	補完	500,000	2008年度採択国際GP	国際交流G	補完
執行額	内容	移管先	目的																											
5,000,000	2007年度採択大学院GP	大学院G	補完																											
3,000,000	2007年度採択社会人学び直しGP	エクステンションG	補完																											
1,800,000	戦略的大学間連携	教学企画G	育成																											
3,000,000	2007年度採択社会人学び直しGP	エクステンションG	補完																											
2,000,000	2005年度採択現代GP	商学部G	補完																											
500,000	2008年度採択国際GP	国際交流G	補完																											
	<p>(3) 広報活動 採択された各プログラムがそれぞれ個別ホームページを立ち上げ、社会に積極的に情報発信を行なっている。</p>																													

	<p>また、「明治大学教育改革の取組」として教育改革支援本部のホームページを作成している。</p> <p>・問題点 (1) GPへの申請活動 複数年目のプログラムに関しては学内公募への応募件数が少なくなっている。</p>	
--	--	--

4 学生の受け入れ(略)

5 学生生活(略)

6 研究環境(略)

7 社会貢献(略)

8 教員組織(略)

9 事務組織

事務組織に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(事務組織の構成) ○ 事務組織の構成と人員配置	・現状 教育支援部教育支援事務室が事務局を担当し、大学院事務室、国際交流事務室が協力している。 ・長所 ・問題点	
(事務組織と教学組織との関係) ○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況 ○ 大学運営における、事務組織と教学組織との有機的一体性を確保させる方途の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
(事務組織の役割) ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

<p>○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況</p> <p>○ 大学運営を経営面から支えるような事務機能の確立状況</p>		
<p>(スタッフ・ディベロップメント(SD))</p> <p>○ 事務職員の研修機会の確保の状況とその有効性</p> <p>・ 事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性</p>	<p>・ 現状</p> <p>・ 長所</p> <p>・ 問題点</p>	

10 施設・設備等(略)

11 図書および図書・電子媒体等(略)

12 管理運営

管理運営に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>(運営委員会等)</p> <p>○ 委員会の役割とその活動の適切性</p> <p>○ 運営委員会とセンター長等との間の連携協力関係および機能分担の適切性</p> <p>○ センター等と評議会、大学協議会などの全学的審議機関間の連携及び役割分担の適切性</p>	<p>・ 現状</p> <p>本部は、次の任務を行う。</p> <p>(1) 教育改革支援事業の採択に向けての支援</p> <p>(2) 教育改革支援事業に係る募集、審査、選定、申請等</p> <p>(3) 教育改革支援事業に係る情報収集及び分析</p> <p>(4) 教育改革支援事業に係る予算要求及び補助金収入の配分</p> <p>(5) その他学長が必要と認めた事項</p> <p>2 本部は、前項第2号の教育改革支援事業に係る選定に関する事項及びその他の必要な事項に関し、学部長会の議を経て理事会に付議するものとする。</p> <p>・ 長所</p> <p>・ 問題点</p>	
<p>(センター長等の権限と選任手続)</p> <p>○ 選任手続の適切性、妥当性</p> <p>○ 権限の内容とその行使の適切性</p> <p>○ 補佐体制の構成と活動の適切性</p>	<p>・ 現状</p> <p>本部長は、学長の命を受けて本部の業務を総括し、本部を代表するとともに、本部会議の議長となる。本部長は、教務部長又は副教務部長のうちから学長が指名する。</p> <p>本部長の任期は、2年とする。ただし、本部長が欠けた場合の後任の本部長の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>本部長は、再任されることができる。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・長所 ・問題点 	
(意思決定) ○意思決定プロセスの確立状況とその運用の適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 次に掲げる事項について審議するため、本部会議を開催する。 (1) 任務に関する事項 (2) 学長から諮問された事項 (3) その他本部長から諮問された事項 2 本部会議は、議長が招集する。 3 本部会議は、その構成員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。 4 本部会議の議事は、出席した本部会議構成員の3分の2以上の議決により、これを決する。 5 学長は、本部会議に出席し、意見を述べることができる。 6 本部会議は、必要に応じて、本部会議構成員以外の者を出席させることができる。 ・長所 ・問題点 	
(管理運営への学外有識者の関与) ・管理運営に対する学外有識者の関与の状況とその有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
(法令遵守等) ○ 関連法令等および学内規定の遵守 ○ 個人情報の保護や不正行為の防止等に関する取り組みや制度、審査体制の整備状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	

13 財務(略)

14 自己点検・評価

自己点検・評価に関する目標		
点検・評価の結果生じた問題点について、真摯に改善に取り組む。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(自己点検・評価) ○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 学習支援室を利用する学生へのアンケートについて、委員会にて検討されているが、まだ実施されていない。学習支援室の体制について、利用する側からの意見を反映させるためにも、今後、導入し 	<ul style="list-style-type: none"> ●2009年度の委員会にて、アンケート内容、実施時期について検討し、年度内に実施する。

<p>の有効性 ○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性</p>	<p>ていく。 また、毎年自己点検・評価報告書の作成時に、記述内容について全学的な点検が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長所 ・問題点 アンケート内容、実施時期をいつにするか検討が必要である。 	
<p>(自己点検・評価に対する学外者による検証) ○ 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性 ・ 外部評価を行う際の、外部評価者の選任手続の適切性 ・ 外部評価結果の活用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
<p>(大学に対する社会的評価等) ・センター等の社会的評価の活用状況 ・ 自大学の特色や「活力」の検証状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
<p>(大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応) ○ 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告等があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会で対応することになっている。 ・長所 ・問題点 	

15 情報公開・説明責任(略)